

巻頭言

平成 26 年度は、地方創生という新たな国の政策が全国に大きな動きをもたらし、文部科学省の競争的資金や総務省の施策も地方創生を中心にしたものに変更されました。

これにより、本学のような看護系単科大学にも地方創生に向けて何ができるかを検討することが課せられました。検討は平成 27 年度に入っても継続し、関係する石川県公立大学法人や石川県との会議が重ねられ、結果的には組織間の距離が縮まるという良い効果ももたらされました。本学は、開学時より地方創生の精神に基づく教育を心がけてきており、[新たに]、[直接的に]寄与出来ることは何かを考えると戸惑いもありましたが、合計特殊出生率向上への間接的貢献や高齢者が元気で長生きできる社会づくりへの貢献等、いくつかのテーマが行政との間で確認されたことは、本学にとっても意義あることと思われまます。平成 27 年度は、各自治体の地方創生に向けた計画もすでに固まり、包括連携協定を結んでいるかほく市との子育て支援の事業等、早速動きが感じられました。

また、地方創生とは別に、2025 年問題を見据えた医療再編の動きも平成 26 年頃から聞こえ始め、本学ではその方向性や求められる看護師像への検討を平成 27 年度に開始しました。また、平成 28 年度が現在の中期計画の最終年度であることから、次の中期計画を練り始めることも取り組むべき大きな事項でありました。

このように平成 27 年度は、(1)医療の再編に向けた看護教育の見直し、(2)地方創生に向けた大学としての貢献、そして(3)平成 29 年度からの 6 年間の中期計画の策定、という知恵と俯瞰的な見方をもって本学を方向づける節目の年となりました。これは平成 28 年度にも引き継がれ、時間をかけて検討する予定です。

さて、本学は、開学から 16 年経過する大学であります。近年、大学には教育内容の工夫や変化が必要となり、研究においては一層臨床現場や地域社会への貢献を意図した研究の推進が求められています。高校から入学してくる学生の変化も感じられ、現代の学生に適した教授方法を取り入れること、多様な学生の個性を見極めながら個別の支援も加味することが重要です。本学では、平成 27 年度は、初学年教育の充実に力を注ぎ、1 年次向けの科目において科目横断的な取り組みを試行したこと、グローバル人材育成に向けて民泊体験を取り入れ、かつ韓国での学生研修(大学院生を含む。)を行ったこと等、着実に一歩一歩教育の改善に努めています。大学院においては、新たな高度実践看護師教育の可能性も検討し始めました。大学運営としては、昨年度形にした教員評価の仕組みをさらに検証すること、自己点検評価を充実させ、それと連動するように年報を改革すること等を行っています。

このような背景の下に、この年報は、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等が、ありのままにほぼ網羅的に掲載されています。皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> にもアクセスしてみてください。本学に対する忌憚のないご意見をお寄せいただけましたら幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 16 回入学式
(平成 27 年 4 月 3 日)



夏のオープンキャンパス
(平成 27 年 7 月 18 日)



第 10 回夏期アメリカ看護研修 (平成 27 年 8 月 25 日～9 月 7 日)



JICA 日系研修
(平成 27 年 7 月 14 日～8 月 7 日)



JICA 青年研修
(平成 27 年 11 月 25 日～12 月 8 日)



中国 南京中医薬大学との MOU 締結
(平成 28 年 3 月 28 日)



中国 吉林大学看護学院との MOU 締結
(平成 28 年 3 月 29 日)



全州市保健所



全北大学校看護大学
(実習室)

韓国 全北大学校看護大学 看護研修 (平成 28 年 3 月 20 日～3 月 27 日)



石川県保健師助産師看護師実習指導者講習会
(平成 27 年 8 月 12 日)



専門的看護実践力研修事業「管理者経営研修」
(平成 27 年 11 月 27 日)



第 12 回卒業式 (平成 28 年 3 月 19 日)